

インターバンクの声（2017年7月27日）

ドル/円は111円台後半から112円台前半にかけて、ユーロ/ドルは1.16ドル台前半でFOMCの発表を待ち構えていたが、市場はFRBの「金利据え置き」と「バランスシート正常化プログラムを比較的早期に開始」との決定にそれぞれ100ポイントほどドルが売られる反応となった。

既に市場では9月の追加利上げはなしと見込んでいたものの、12月については5割近くの可能性を残していたが、今回の声明で12月の利上げ観測も大幅に後退してしまったようだ。

日本円にして約500兆円まで膨らんだ資産縮小を「比較的早期に始める」との記述について、6月の「年内開始」とした文言からの修正を考えれば、次回9月の会合での決定を示唆していると見るのは妥当だろう。

FOMCの発表後には米国株、原油価格共に下落せず、ドルも急落後は落ち着いている。追加利上げが後ずれすることに重きを置くのか、今後の景気の安定を取るのか、ドルの先行き判断を迷っている人も多いようだ。

再び米国を中心とした経済指標を追いかける日々が続きそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。